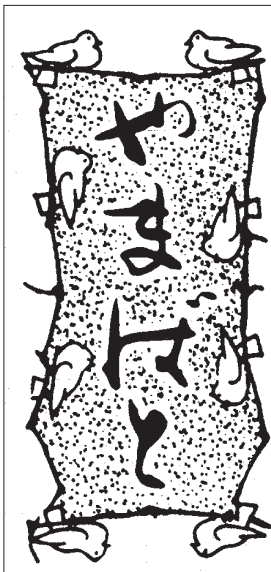

発　行
社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園
〒421-0412 静岡県牧之原市
坂部2151番地2
TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157
E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp
http://www.yamabatogakuen.jp/
機関誌代は無料です。

猛暑と、長時間の停電

（一）

九月五日、台風十五号が日本列島を横断。私たちは、激しい雨になると警戒していましたが、実際には、「豪雨」ではなく、最大級の「突風」に見舞われることになりました。報道によると、「五日の十二時五〇分頃、牧之原市（当地）と吉田町（隣町）の一部に突風が発生、電柱の折損や鉄骨建物の外壁材の飛散など、広範囲にわたって被害をもたらし、牧之原市では住宅千百棟以上が損壊、吉田町では車が横転し五〇代の男性が死亡」とあります。後日、この突風は、風速約75ｍ／秒の最大級の竜巻だったと判定されたのでした。

「牧之原市に竜巻」のニュースは全国に報道されましたが、当地以外にも、焼津市、掛川市、伊東市、菊川市でも風速40ｍを超える竜巻が発生。その後の大雨による被害も含めると、静岡県全体の被害は、死者一、重傷八、軽傷七五人。住宅は全壊二、半壊一六四、一部損壊一五〇二棟、床上浸水五三棟、床下浸水三二九棟となっています。（十二日14時点、県発表）。

（二）

私たちの施設はどうだったかというと、幸い、建物に被害はありませんでしたが、予期せぬ「停電」に苦労することになりました。

暑い中、エアコンの使用不可、照明器具やパソコン、固定電話、冷蔵庫、炊飯器、洗濯機、扇風機、エレベーター等々、電力により動いていたものはすべてストップ。

施設によって、電気器具の使用状況が違い（例えばガス使用の施設と、ＩＨ使用の施設）、通常業務への影響は幾らか違いが出ましたが、共通した困難は、暑い中でもエアコンが使えない、夜も電灯なしという現実で、夜間ケアが続く入所施設では「ご利用者と職員の健康」が、特に案じられました。

ちなみに、当法人の全ての施設が停電を味わったわけではなく、島田市にある施設（垂穂寮、野ばら、コスモス、なのはな、かたくりの花）は、台風十五号の被害も停電もありませんでした。また、牧之原市内であっても「相寿園」は、幸運なことに停電することもなかったのでした。被害のない施設は、停電中の入所施設（聖ルカホーム、グレイス、希望寮）のために、必要な器具、例えば携帯自家発電機などを提供し助けたのでした。

（三）

停電は、電柱が倒れた五日（金）午後一時頃から始まりました。

自家発電装置を備えていた聖ルカホーム（特別養護老人ホーム）は、停電と同時にすぐ自家発電機が作動し、扇風機を回しましたが、フル稼働はせず慎重に使ったため部屋はむし暑く、これではだめとスポットクーラーを購入し設置。出勤予定の職員には、可能なら「水を冷凍させたペットボトル」を持参するように指示したとのこと。（ご利用者の身体を冷やすため）。

一方、地域密着型小規模特養の「グレイス」は、台風到来前に水を貯め「生活用水」には困りませんでしたが、自家発電装置はなく、照明はランターン。他施設から提供された携帯発電機で扇風機を回し窓を全開して暑さ対策しました。

もし停電が長引けば、二つの高齢者施設とも病人を出したかもしれません。が、有難いことに、六日（土）の夜九時頃、他よりもいち早く電力が復旧したのでした。

障碍者支援施設「やまばと希望寮」は、七日（日）夜九時まで停電が続きましたが、年齢の若い人たちが多いせいか、扇風機と窓の

開放で乗り越えることができました。「災害時の電力補給」という目的で購入したハイブリッド車は、冷凍庫の電源となり、冷凍食品の解凍・腐敗を防いだのでした。

（四）

個人的な体験で恐縮ですが、その日、私は同居中のEPA生を垂穂寮宿舎へお願いし、自分はホテルを予約。しかし満床で、二つ目のホテルで予約できたのでした。

日が暮れる中、自宅で衣服等を準備。冷凍庫から瀕死状態？の食材を全て取り出し、ガスを使って、煮たり炒めたり。…汗が吹き出る感じでしたが、食事持参で出発。

しかし（普段は車で十五分内で行けるホテルへ）、何と、二時間半もかかったのでした。通行止めになった道路が多く、信号も止まる等、ものすごい渋滞が発生していたのです。一時間ほどじっと忍耐し、前の車に従っていましたが、途中で思い切って「近道」へ抜けたところ、そちらも渋滞で、そのうち何処を走っているのか不明になり、迷走し続け、やっとホテルへたどり着いたのでした。

「『急がば回れ』は事実だ」と苦笑したことです。それにつけても、夜間も明かりがついていることや、信号機が作動していることは何と有難いことでしょうか。

（五）

よく引用される「天災は忘れた頃にやってくる」は、著名な物理学者・寺田寅彦（一八七八～一九三五年）が、講演の中で語った言葉だそうです。寅彦は、物理学で数々の業績を残しただけでなく、防災への関心と識見も高く、実際に地震・台風・火山等の被災地を調査、一九三四年には「天災と国防」という文を記し、自然災害との向き合い方について、数多くの含蓄に富んだメッセージを残しています。

私の印象に残った文章として、こんなものがあります。

「常に忘れられがちな重大な要項がある。それは、文明が進めば進むほど天然の暴威による災害が劇烈の度を増すという事実である。～中略～　文明が進むに従って人間は次第に自然を征服しようとする野心を生じた。そうして、重力に逆らい、風圧水力に抗するよういろいろの造営物を作った。そうしてあっぱれ自然の暴威を封じ込めたつもりになっていると、どうかした拍子に檻を破った猛獣の大群のように、自然があばれ出して高楼を倒壊せしめ堤防を崩壊させて人命を危うくし財産を滅ぼす。その災禍を起こさせたもとの起こりは、天然に反抗する人間の細工であると言っても不当ではないはずである。」

（六）

ある方が、「神が創造した世界には、完全なリサイクルの営みが見られ、美しくて無駄がない」と述べていますが、人間が作り出すものには、しばしば厄介な付属物が産出されるようです。

私たちが車やパソコン等々、便利なモノを求めたため、「石油・石炭、ガスの燃焼」が激増し、一方では、利益を追及する人々により「森林破壊」も進み、そういった様々のことが、「地球の温暖化」→「異常気象」→「豪雨」に至っていると思うと、これは「天災？」、それとも「人災？」と思わないわけにはいきません。

（「竜巻の発生」については、正確なことは不明ですが、「温暖化と無関係」とは言えないでしょう。）

いずれにしても、この流れをストップさせることは困難であり、厄介な付属物を有益なモノに変える技術を誰かが開発してくれるのを待つか、或いは、誰もが、自分にできること、例えば、CO_2排出の減少のためレジ袋を使わない、といった事を実行するしかないと思います。

最後に、今回、施設のご利用者を守るためベストを尽くしてくれた職員の皆さんに心から感謝したいと思います。また、今なお、電気が復旧せず困難な状況の中にいる人々、そして当地だけでなく、国内各地において被災後の新しい暮らし再建のために日夜努力しておられる方々を思い、神さまのお助けとお守りがありますように、心身を守られ笑顔で乗り越えていかれますようお祈り申し上げます。

〈理事長〉長沢道子

夫・渡辺俊一の歩み

渡辺紀久子

理事長・長澤道子さんとは、約六十年ほどの長いお付き合いで、私は「やまばと学園」の評議員を微力ながら八年間勤めさせていただきました。夫も都市計画の仕事柄、いつも学園が津波の被害に逢わないかと心配して、ときどき理事長に連絡していました。その夫が昨年他界し、今回、原稿を依頼されました。

俊一は、高校卒業後の進路を決める時「商人の家に奉公するか、東大なら進学を許可する」と厳しい判断を迫られました。小学二年の時に疎開先で父親を亡くし、貧しい生活だったのです。東大受験を選びましたが、親戚の家に居候して石炭運びをしつつの受験勉強でした。幸い希望通り合格することができました。

入学後、松尾育英会にお世話になりました。その育英会は、松尾国三ご夫妻によって一九五七年に設立された奨学金制度です。ご夫妻は、旅役者から身を起こし、後に大阪の新歌舞伎座を作られるなど、財を成した方です。ご自分たちが、まともに教育を受けられなかったことを鑑み、前途有望な青年たちが貧困ゆえに充分教育を受けられずに埋もれることに心を痛め、私財を投げ打って設立されたのです。全寮制で、学費はもとより、食費などの必要経費も全て給付されて、返済義務は一切不要でした。夫にとり唯一無二の制度でした。「受けた恩は社会に返せ」この言葉を俊一は胸に刻んだようです。

俊一は、十九歳で洗礼を受け、大学卒業後、奨学金を得てジョージア工科大に留学、一年後、ハーバード大学院に転校し、都市計画を学びました。帰国後、建設省を経て東京理科大学で「都市計画」を教えました。

都市計画と言っても変わった学者で、スラム街の研究も熱心にしていました。毎年夏休みに、学生さんとインドネシア、タイ、香港などのアジアの国々に出かけて行きました。インドネシアでは、ある学生さんは、不潔な生活を避けるために、ゴミの処理法を考え出しました。別の学生さんは、香港の九龍城の（蒸し暑く薄暗い十四階建の）大きな建物の中で、建て増した迷路状の複雑な構造を自分達で図面に画いて、人々の暮らしを研究し卒業論文にまとめました。私は、全員が帰国するまで感染症にかからないか内心ドキドキしたことを懐かしく思い出します。

三十年前は、大学の周囲に食堂が少なかったようで、研究室で夜中まで論文書きをする学生さんのために、俊一は東京の自宅でサラダを、私はカレーやちらし寿司を作り、大きなタッパーに入れて、「学生たちは僕の宝だから」と言いながら、たびたび車で大学に運んでいました。

俊一は、学生の指導や国際会議出席など楽しそうに働いていました。最後に出た会議では、学会のノーベル賞と言われるピーターホール卿賞を受賞し満面に笑みをたたえていました。けれども疲れが出たのでしょう。停年後に咽頭癌を患い、十五年間、放射線治療、抗がん剤、声帯削除手術、あらゆる治療を試みました。

術後、声帯がなくても補助器具を使って話せるようになり、NPO（キレない子を育てる会）の理事会の運営・進行を行っていましたが、癌が進行してしまいました。

ご家族と共に

俊一は、家から二十分ほどのホスピス病棟に入院。そこには卒業生たちからカードや手紙が沢山届けられました。家族、学生、友人を大切にした夫は、亡くなる前に、こんなことを聞いてきました。「社会への恩を返せたかな？」と、心配そうに聞きましたので「充分返せたわよ」と伝えると、安心して眠りにつきました。

「葬儀」は、猛暑の中、多くの方々が、参列してくださり、海外の方は、オンラインで別れを惜しんでくださいました。「主、我を愛す」の賛美歌が会堂に響きわたりました。

後日の「偲ぶ会」では、先生や卒業生による会が六時間かけて行われました。十人の学者による講演、卒業生によるスラムでの動画ショー、NPOの活動など盛り沢山のプログラムでした。心のこもった素晴らしい会となり、偲ぶ会は俊一への最高のプレゼントでした。彼は、天国でどんなに喜んだことでしょう。

牧師先生から送られたイエスの言葉に慰められました。

「一粒の麦は地に落ちて死なければ一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」

（新約聖書ヨハネによる福音書12章24節）

コスモスの開所式

ケアセンターコスモス　森山規子

四十五年目を迎えたコスモスは、ワークセンターからケアセンターに事業種別が変更になりました。

七月二十九日にコスモス開所式を執り行い、保護者様や島田市役所福祉課担当者様にも参加をしていただきご報告いたしました。ご利用者からは、建物が綺麗になって嬉しいですとの言葉も聞かれました。

二月から始まった建物の改修工事期間中は、玄関やトイレ、支援室がそれぞれ使用できない期間があり、日中過ごす場所を借りて過ごしたり、仮設トイレを使用するなど、ご利用者にとっては初めての経験がたくさんありました。スタッフにとっても初めての経験であり戸惑うこともありましたが、ご利用者が不安にならないようにと心掛けました。不便なことが多い中でも、ご利用者から「工事が終わったらコスモス綺麗になるね。楽しみだね」と前向きな言葉も聞かれ、逆に励まされた気持ちにもなりました。作業ができない日は、桜を見にドライブに出掛け、「桜見たねー」と笑顔で喜んでいただき、私も嬉しくなったことを思い出します。

今回の経験では、ご利用者お一人おひとりの持つ可能性の幅広さに何度も驚かされ、支援者が想定した以上に、ご利用者の対応力や生きていく力の強さを感じさせていただきました。

生活介護事業所になった現在も、日中はこれまでと同じように作業を中心に取り組み、毎月十日のお給料日を楽しみに皆さんが意欲的に作業をしています。作業だけでなく、行事の飾りつけや、ドライブ、散歩など楽しい活動もあり、みんなで笑いあう時間が増えたと感じています。

「働く生活介護」として、利用者様の「できる」力を大切にしながら、安心して通っていただける場所でありたいと思います。

（主任生活支援員）

三年目になって

垂穂寮　天野佑月

社会人になって、垂穂寮に入って今年度で三年目になります。学生の頃は保育士を目指していたので、保育士資格を取るために勉強していましたが、やまばと学園の施設に実習する機会があり、その実習がきっかけでやまばと学園に就職させて頂くことになりました。今までは保育士の勉強をしていたので、福祉に関する知識はほぼ無く、支援をしていく中で、職員の方々に教えていただきながら、支えていただきながら徐々に様々な支援ができるようになっていきました。これまでご利用者との関わりの中で、出会いや別れを経験し、様々な感情を味わうことが多いですが、毎日楽しく過ごすことが出来ています。

垂穂寮のご利用者との関わりで印象に残っていること、自分を成長させてくれた出来事は入社して間もない頃のご利用者による「試し行動」です。あるご利用者に私の指示だけ通らなかったことがありました。そのご利用者は「トイレに行ってください」等の声掛けをすると、しっかりと理解して行動できる方なのですが、私が入ったばかりの新人ということもあり、警戒されていたり見定められていたりして、他の職員の方の指示は通るのに私の指示は全く通らないという時期がありました。さらに、その当時の勤務上、その方と関わることが多くて指示が通らない期間が続いてしまっていました。どのような関わりをしたら良いのか職員の方に相談したところ、解決策を考えて下さり、実施してみると私の指示も入りやすくなり、それと同時に仕事に対するやる気にも繋がっていきました。

この他にも様々な経験をしてきましたが、ご利用者との関わりはとても楽しいことばかりで私自身も元気になることが出来ます。これからもご利用者とともに素敵な時間を過ごしていきたいです。

（生活支援員）

介護者の集い開催

デイサービスセンター真菜　吉田陽子

「介護者の集い」は牧之原市の委託事業で、年に二回開催しています。真菜が担当して七年になります。参加対象者は、牧之原市在住で現在介護をしている方やこれまで介護を経験した方、今は介護をしていないが将来的に介護に不安を感じている方たちです。毎回、五十歳台から七十歳台の方が十五名程参加されています。これは一回目（七月十二日）の報告です。

はじめはリズム体操で身体をほぐしました。これには、転倒予防やリラックス効果があります。

今回のメインは「指先ひとつで素敵にパステルアートを描こう！」で、夏にぴったりの向日葵を描くことです。講師は、（細江出身で現在は沖縄在住の）「絵がきや晴加」様です。

型紙を置いて、削ったパステルを指先につけて、ご自分の好きな色、好きな配置で指先の感覚で濃淡をつけたり、自由に描いていきます。先生の丁寧なご指導のおかげで、個性溢れる世界に一つだけの向日葵があっという間に完成。

皆さんの表情がとても楽しそうで、私たちも嬉しくなりました。そして最後に座談会を行います。七年前は介護者として参加し、ご両親を看取って介護が終わった方は「介護している時は、心の底から楽しむことができなかったけど、今は本当に心から楽しめます。」と話されました。目下介護中の方は「皆さんから体験談やアドバイス、励ましの言葉をいただき、心が少し軽くなった」と話されました。

いつも思う事は、来た時と帰る時の皆さんの表情が明らかに違い、笑顔いっぱいで帰られること。仲間づくりや交流の場になっていると実感しています。

介護教室開催を楽しみにして下さっているので、これからも地域の皆さんがリフレッシュでき、喜んでくださる企画を考えていきたいと思っています。（施設長）

「福祉の仕事を知るセミナー」

やまばと希望寮　杉山　塁

六月二十八日、静岡福祉大学で「福祉の仕事を知るセミナー」を開催。本セミナーは、福祉の仕事の魅力や意義を広く知っていただき、学生や地域の皆さまと共に考えることを目的としたものです。当日は多くの方にご参加いただき、会場は終始あたたかな雰囲気に包まれました。

第部では、静岡福祉大学の木下寿恵教授を講師に迎え、「知的障がいってなんだろう」と題したご講演をいただきました。障がいの特性や支援の在り方について、具体的な事例を交えてわかりやすく解説され、参加者からは「理解が深まった」「支援の視点を新たに学べた」といった声が寄せられました。私たち職員にとっても、改めて支援の基本を見つめ直す大変有意義な時間となりました。

第二部では、私が福祉施設で働く魅力について話しました。日常の支援の中で感じるやりがいや、利用者様からいただく笑顔や言葉が大きな励みとなっていることを、自身の体験を交えて紹介しました。仕事でのやりがいを、部活動やテストでの成功に置き換えて話をすると、学生の参加者からは頷きが見られました。

身近なエピソードを語ったので、会場の皆さまも熱心に耳を傾けてくださいました。終了後には「やりがいに共感できた」との感想もいただきました。

第三部では、四つの障害福祉事業所に勤務する若手職員が登壇し、司会者の問いかけに答えるインタビュー形式で「障害福祉事業所での働き方」を紹介しました。当法人からは「生活支援センターやまばと相談員」の柚原が参加し、新人時代の戸惑いや悩み、そして、利用者様との信頼関係を築く中で得られた喜びを率直に語りました。会場の参加者からはうなずきや笑顔が見られ、福祉の仕事に対する関心と共感の広がりを感じました。

三部構成を通して、福祉の仕事の意義を多角的に知っていただくことができ、地域の皆さまと共に「支え合う社会」の大切さを共有できたことは大きな成果です。今回のセミナーでの学びや交流を今後の活動に活かし、地域に根ざした福祉をさらに推進していきたいです。

（生活支援員）

歩みのあと

（7月1日～8月31日）

●全体的なこと

▼7／1以降高等学校へ求人票を届ける。7／16「地域の名士から学ぶ第1回」前牧之原市長西原茂樹氏の講演。7／18地域ニーズに関する情報交換会開催。7／22牧之原市企業研究会。7／26恵泉女学園中高校生17名先生2名の来園。3日間法人内施設で体験など。7／29コスモス開所式。7／30県内沿岸部にも津波警報／長澤理事長、聖隷学園評議員会へ。8／1相良高校生4名受入れ。8／21榛原高校生15名受入れ／交通安全講習会。8／25リモートで施設紹介。障害者支援施設で初めて、地域連携推進会議。（希望寮は7／8、垂穂寮は8／8、理事長出席）

●個別のニュース

〈法人〉7／3長澤理事長、島田市自立支援協議会へ。7／4理事長他3名、日本キリスト教社会事業同盟総会研修会で広島へ。7／15停電。8／8理事長、障害者自立支援ネットワーク全体会へ。8／20全体虐待防止委員会。8／25遺贈式。8／26あつまりーナ運営推進委員会。8／28静岡福祉大学新井恵子教授とホッとスペース中原代表佐々木炎氏をお招きし人材育成について協議。

《垂穂寮》7／14日赤関係者から救急法を学ぶ。8／2大津地区夏祭り。夜の花火鑑賞会。8／4聖ルカでのたい焼きの出張販売に参加。8／8地域連携推進会議。保護者会長、島田市福祉課職員、大津地区自治会長、アクシア藤枝施設長、島田市社協職員を招き意見交換。8／21新型コロナに罹患。利用者職員合わせ40名超罹患。

《野ばら》6／30～7／4藤枝特支高等部2年の実習生受け入れ。7／7七夕、職員による手品も楽しむ。7／28恵泉女学園生徒さんと塗り絵に取り組む。7／30豪雨による避難訓練を行い、職員の動きを確認。8／19理学療法士様から助言を頂く。

《みぎわ》7／20お楽しみ会。8／10島田消防署で救急救命心肺蘇生、AED操作訓練等。

《やまばと希望寮》7／8第一回地域連携推進会議。地域の方や家族代表、行政職員等の委員に運営内容等について説明。7／18浜名湖遊覧船に乗船。7／15歯科衛生士会によるブラッシング指導、よく磨けているとの評価。7／21陽たまりカフェへ昼食。7／28吉田消防署による職員救急講習。AEDの使用方法等学ぶ。8／8、22ライン歯科渡部先生による歯科検診。口腔内の状況を確認。

《生活支援センター》8／21長く活用した公用車を新車に変更。

《わかば》7／6もくれんと合同で吉田港海岸清掃参加。洗濯機を新調。

《もくれん》8月から職員が1名増。

《花もも》8／8納涼祭。マーガレット、真菜、聖ルカなど、近隣事業所のご利用者様たちをご招待。

《かたくりの花》7／18メロン農家のご好意によりメロン割り。完熟メロンの香りと美味しさに歓声。8／22流しそうめんで涼を楽しむ。8／29歯科衛生士によるブラッシング指導。

《マーガレット》7／4職員研修でBCP訓練。7／7七夕行事。各々の願いを笹に掛ける。7／22エンジョイプランでヤマハコミュニケーションプラザへ。

《カサブランカ》7／9島田警察署交通安全課による交通安全講習会。自転車運転の講話を聞く。7／15河本部長よりハラスメントに関する講話。7／24熱海市環境課職員見学。7／13、14ご利用者へ昼食提供。8／20熱海ふれあい作業所関係者6名視察。8／22夏の会食会で焼肉店へ。繁忙期を乗り越える体力をつける。

《コスモス》7／29サービス種別変更に伴う開所式。林牧師の礼拝、ご利用者、ご家族、法人関係者、行政担当者と共にお祝い。8／1施設長が石川忠昭に変更。8／26島田市の放課後デイサービス「ひまわり」の子供たちと交流会。キッチンカーのクレープを食べる。

《なのはな》7～8月藤枝特別支援学校生、教諭、六合中支援級等、見学・体験者多数あり。7／15ボーナス支給。7／31民生委員との交流会。8／8起震車体験、地域の方も参加して防災についての学び。8／14ゲーム大会、かき氷を楽しむ。

《希望の家》7／11交通安全教室。7／18歯磨き指導。7／24歯科検診。8／8夏祭り、職員手作りの千本引きやストラックアウトに大盛り上がり。夏の楽しい思い出に。

《ふれあい》7／11まで特支高等部2名実習、施設内が活気づいた。7／4交通安全教室。7／29歯科検診。8／7七夕飾り、自分の願いだけでなく仲間の健康や世界平和を想う短冊も飾られた。

《あさがお》7／8体操教室。7／18七夕行事。短冊に願い事を書き飾り付けした。8／12笑いヨガ。8月3件の見学あり。

《WOCやまばと》7／11まで吉田特支高等部2年生1名実習。7／2牧之原市さざんか、7泰善寺にて自主製品販売。7／7七夕飾り。7／18夏季賞与。8／30納涼会駄菓子屋でお菓子やかき氷の買い物を楽しむ。7、8月毎週月・水曜日ボランティア三浦孝様来所。

《さくら》7／4災害BCP実施訓練。7／7七夕飾り「父の病気が治りますように」「大きな地震が来ませんように」。7／30津波予告があり、午後閉館。8／8ボーナス支給。

《レタスクラブ》7／4災害BCP実施訓練。7／7ランチつくり「夏野菜カレー」。7／30津波警報があり、午後閉館。8／27「そらっと牧之原」へ皆でお出掛け。

《聖ルカホーム》7／26恵泉女学園の皆様を受入れ。ユニットケアでの職員研修。10月感謝祭の準備。

《グレイス》7／11、17庭の野菜でカレーを作って食す。7／24、25垂穂寮職員が実習のため来所。7／28かき氷メーカーを借り、かき氷を各ユニットに提供。8／8団扇づくり。8／11ゲームのあとスイカ食す。8／18本物のスイカはど～れだゲーム。8／29ひまわり園見物で季節を感じる。

《相寿園》7／8、8／12大場さんのレク。7／11輪投げ大会。7／12盆供養。おやつにみそまんじゅう。7／16、8／20笑いヨガ。7／22納涼祭。7／25、8／22習字クラブ。8／11ストラックアウト大会。8／15誕生月外出。8／19お楽しみクラブでかき氷。皆さんで涼む。8／23おやつ（カスタードケーキ）。

《真菜》7／12牧之原市介護者のつどい。午後は地域向けパステルアート体験会。7／15手作り昼食。カレーピラフと鳥マヨ。7／24～26、8／27～29かき氷。7／26恵泉女学園の皆様と交流。8／1相良高校生4名来所。8／8花もも納涼祭に参加。8／13手作り昼食。ナスのみそ炒めなど。8／21榛原高校生来所。8／30畑のスイカを収穫。甘くみずみずしい。

《すずらん》7／18、19の2日間、かき氷を食べて涼む。8／22夏祭り。浴衣を着て晴れやかな表情で参加。昔を思い出し、盆踊りや輪投げを楽しまれる。

《さふらん》8月末運営規定変更、職員配置を15人に変更。

《シャローム》7／1牧之原市による運営指導。指摘事項なし。7／10ケアプラン点検に指導者で参加。7／11～要配慮者避難確保事業に福祉専門職として参加し、個別避難計画作成。7／15牧之原市新人ケアマネ研修企画、指導者として参加。7／30津波警報を受け、安否確認。避難促し、各機関と連絡調整実施。8／14主任ケアマネ研修の企画、講師と打合せ。

《オリーブ》月1回発行の便り「ええあんばい」に、「東京大空襲」掲載。「私たちは今、家族に囲まれて幸せですが、あの日で人生が終わってしまった方も大勢います。悲しいことに、今でもどこかで戦争は続いています。戦争は絶対にやってはいけない。このことを強く皆さんに伝えたいと思います」。

ボランティア活動

★活動者名（個人は姓名のみ）

個人　大石節子、大塚はるみ、大石百華、押尾恵、小島茂美、鈴木貴雄、鈴木秋次、鈴木伶采、内藤せき、田塩理久、田塩脩三、浦孝、道田紗菜、村田桔梗、村和稔、森晴加。

団体　さくら会（行事補助）。

実習生受け入れ状況

〈垂穂寮〉

日本福祉大学　1名　7／1～8／8

浜松学院大学短期大学部　2名　7／16～8／1

〈コスモス〉

常葉大学　2名　8／8～8／20

島田市立看護専門学校　2名　7／22～23

常葉大学　2名　8／18～8／29

〈真菜〉

静岡福祉医療専門学校　1名　7／25～26

寄付金状況報告　（単位：円）

	寄付金	指定寄付金	合　計
4月～7月	20,068,431	0	20,068,431
8月	20,300,500	0	20,300,500
計	40,368,931	0	40,368,931

＊2025年5月大口寄附（個人）あり　18,555,081円
＊2025年8月大口寄附（個人）あり　20,000,000円

2025年8月31日現在

あとがき

☆表紙写真は、ワークセンター希望の家のご利用者。モルック大会で最高得点を出し、最高の笑顔です。

☆渡辺俊「紀久子様ご夫妻には、当法人のために何かとお助け頂きました。改めて感謝申し上げます。

☆九月五日の当地での竜巻被害に対して、多くの方からご心配をいただき、お祈りやご支援を頂いたことを感謝いたします。今はつつがなく業務に復帰していますのでご安心ください。〈I〉